

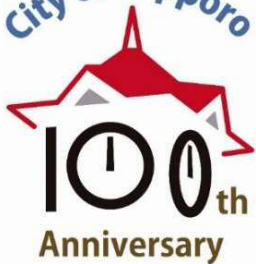
SAPPORO

札幌市における 国際会議等誘致の現況と取組



札幌市経済観光局観光・MICE推進部

City of Sapporo



札幌が、もっとはじまる。

I 札幌市のMICEの現状

■ 札幌市の優位性

札幌市の強み ▶ 【都市と自然が共生】

都市中心部を横断する大通公園 ▶

- ・ビルや住宅が立ち並ぶ「高度な都市機能」と、森林や公園が面積の60%を占める「自然」が調和した都市
- ・会議会場から近いエリアに宿泊施設が充実するなど、都市機能がコンパクトに集積
→コンベンションが開催しやすい都市



地球惑星科学	感染症学
<p>地球科学に関する論文被引用数:国内 2位 市内には、宇宙関連のベンチャー企業が集積</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2019年7月 第82回国際隕石学会年会 (MetSoc) 	<p>北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター ▶ 新型コロナウイルスをはじめとした人獣共通感染症に特化した世界初の研究機関でありWHOに協力</p>
低温科学	獣医学・酪農学
<p>北海道大学低温科学研究所 ▶70年以上にわたる寒冷圏及び低温条件化における科学的現象の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2022年8月 第29回低温物理学国際会議 (LT-29) <p>※日本学術会議共同主催</p>	<p>動物・植物学論文被引用数:国内 3位 都市の中心部に58haの北海道大学札幌農場が広がり、獣医学・酪農学研究が盛ん</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2018年8月 第30回世界牛病学会 (WBC)



※JNTO「Japan: Competitiveness in Academia and Industry - Introduction of Excellent Cities」より **都市中心部に58haの北海道大学札幌農場が広がる ▶**

【札幌市の重点産業分野】

観光 / 食 / 環境 (エネルギー)
健康福祉・医療 / IT・クリエイティブ



会議 開催 一覧	開催 予定	2022年9月	第22回国際真空学会 (IVC-22) <2,000人> ※日本学術会議共同主催
		2023年8月	第35回国際電波科学連合総会 (URSI GASS) <1,200人>
		2023年9月	アドベンチャー・トラベル・ワールド・サミット (ATWS) < 800人>
		2024年11月	第8回アジア太平洋作業療法学会 (APOTC) <1,400人>
		2026年9月	第11回国際セラミックス会議 (ICC) <1,300人>
		2030年	第24回世界神経放射線学連盟シンポジウム<2,000人>

I 札幌市のMICEの現状

■ 国際会議の開催状況

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
JNTO基準	116件	109件	102件	/	/
ICCA基準	28件	20件	25件	/	21件

【ICCAランキング（2021）】

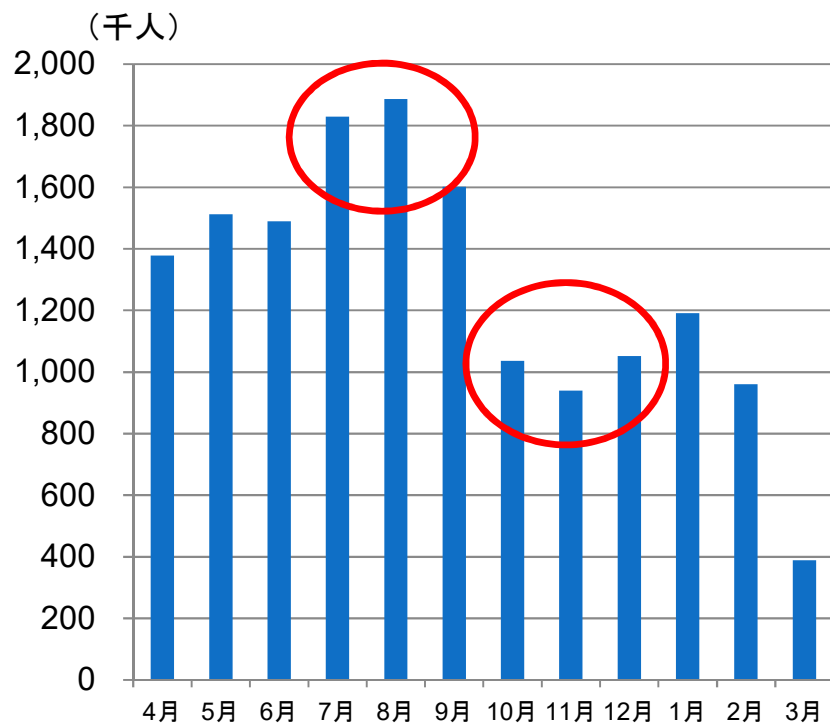
都市名	件数	国内順位	AP順位	世界順位
東京	79件	1位	3位	10位
京都	46件	2位	9位	34位
大阪	25件	3位	15位	69位
福岡	24件	4位	16位	72位
札幌	21件 (25件)	5位 (5位)	18位 (27位)	82位 (117位)
横浜	20件	6位	21位	87位
名古屋	16件	7位	24位	112位

※札幌市の()内は2019年

I 札幌市のMICEの現状

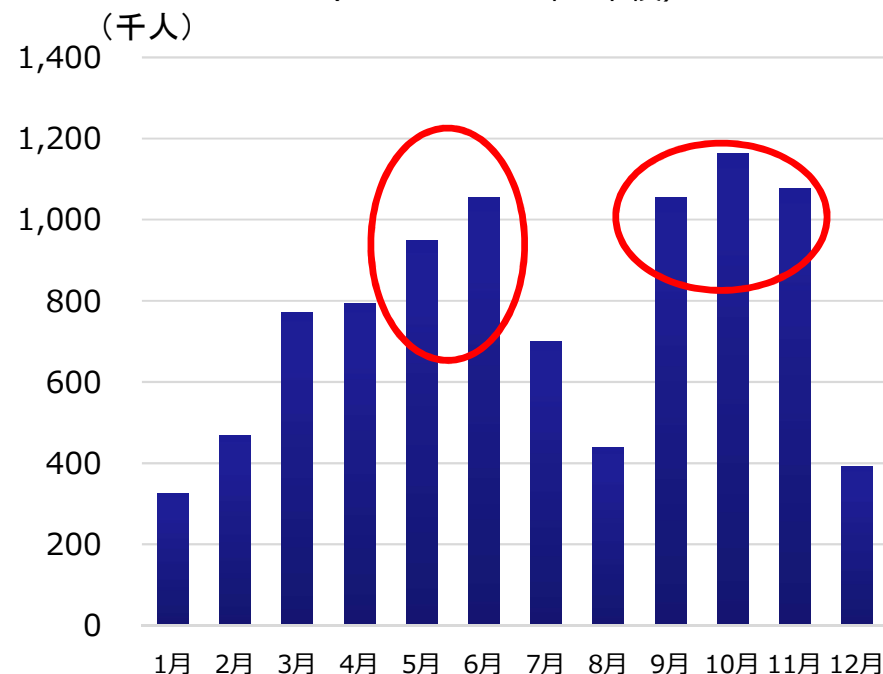
■ 月別の動向

【来札観光客数（2019年度）】



【国内における国際会議の参加者数】

(2015～2019年の累積)



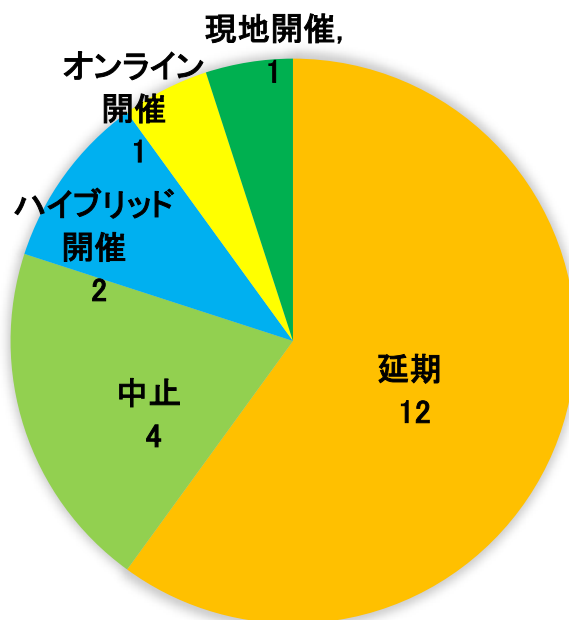
- 札幌観光のハイシーズンは7月～8月で繁忙期と閑散期の差が大きい
- 8月（188万人）と11月（93万人）では観光客が半分以下に落ち込む
- 国内における国際会議の参加者数が多い時期は春、秋に集中
- 国際会議等の誘致は札幌観光における閑散期の落ち込みを底上げするために、開催時期も意識しながら活動していた

Ⅱ コロナ禍における誘致活動

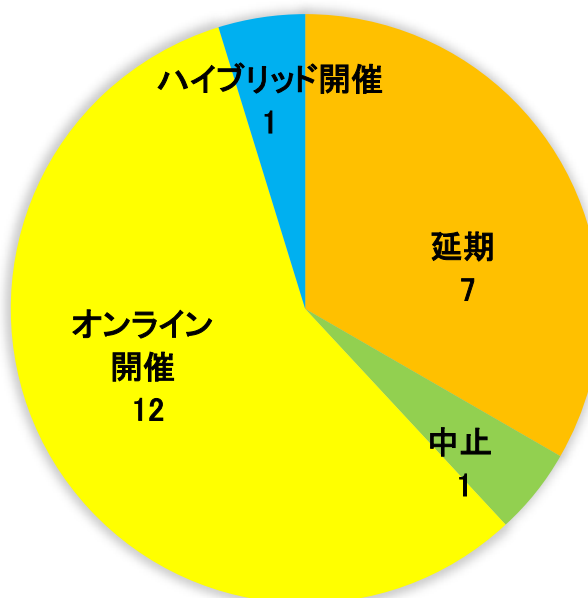
■ 新型コロナウイルスの影響による開催方法の変化

・2020～2022年札幌市内で開催予定であったICCA基準国際会議の開催状況

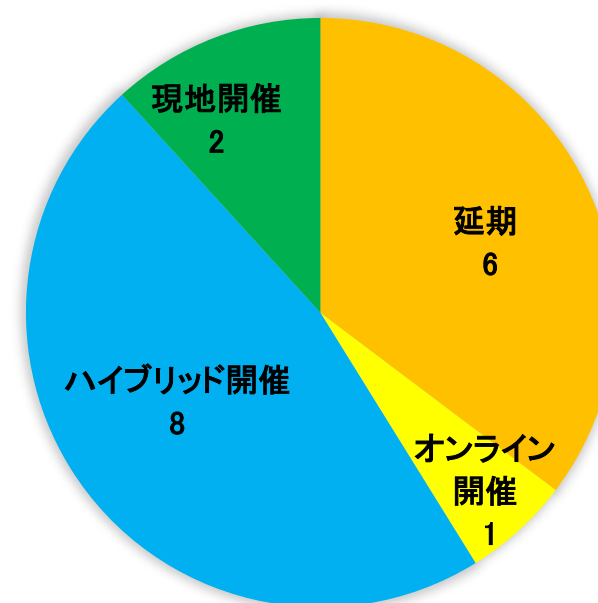
【2020年】



【2021年】



【2022年】



一昨年・昨年と比較して、2022年は延期や完全オンラインの会議が減り
ハイブリッド開催の会議が増加

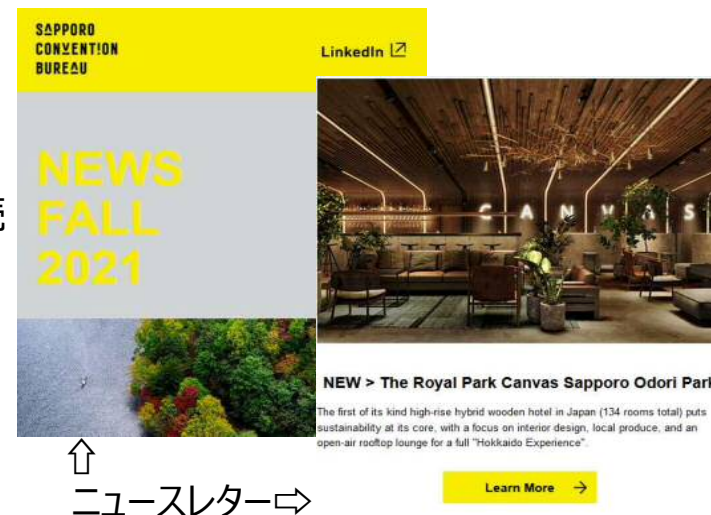
Ⅱ コロナ禍における誘致活動

■ コロナ禍における誘致活動等

主な誘致活動

グローバルMICE都市として、コロナ禍でもポストコロナを見据え、誘致活動を継続

- 市内大学・国内外の学協会・PCO問合せ対応
(会場や運営会社の紹介、札幌の観光情報、写真の提供等)
- 提案書作成
- 大学や学協会訪問 等

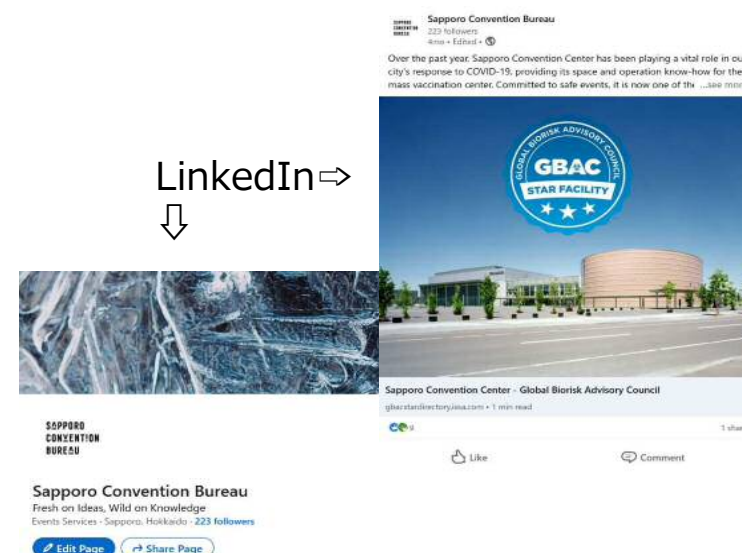


国内外のMICE関係者に向けた広報

- 札幌の魅力のPR活動
→ 札幌・北海道の最新トピックや会議施設・ホテル、ユニークベニューアクティビティ等の紹介

「活用媒体」

- ・ 札幌コンベンションビューローのウェブサイト
- ・ ニュースレター
- ・ SNS (LinkedIn)



Ⅱ コロナ禍における誘致活動

■ 開催支援

誘致促進助成金

コンベンションの誘致促進を図り、集客交流産業の振興や市民交流の推進に資することを目的とした補助制度

○補助対象：国際会議→参加者総数300人以上かつ海外参加者50人以上 or ICCA基準を満たす

国内会議→参加者総数1000人以上かつ道外参加者50%以上

○補助額：開催経費（飲食関係費は除く）の20%以内かつ最大1000万円

ハイブリッドコンベンション助成金

オンラインを併用するハイブリッドコンベンションの開催に対し、オンライン配信に係る経費の補助制度を創設

○補助対象：現地参加者総数100人以上かつ道外参加者割合50%以上のコンベンション

○補助額：オンライン配信に係る経費の50%以内（上限100万円）

Ⅲ 政府系国際会議誘致の取組

■ 政府系国際会議の誘致活動

- APEC開催以降も積極的にG7 関係閣僚会合の誘致を継続
- 2023年G7関係閣僚会合についても誘致を表明し、関係機関へ要望活動
 - ※ 2016年 G7関係閣僚会合は不採択
- 2030年冬季オリンピック・パラリンピックの開催実現による実績の積み上げ

■ 参考：過去実績

開催年月	会議名	参加者数 (うち海外参加者数)
2010年6月	2010年日本APEC貿易担当大臣会合及び関連会合	2,500人(2,200人)
2012年6月	第27回アジア消防庁協会総会	528人 (71人)
2013年7月	国際電気通信連合 無線通信部門 SG5 WP5D第16回会合	185人 (155人)
2013年11月	第13回日中韓特許庁長官会合	225人 (25人)
2013年11月	第4回日インドネシア交通次官級会合	70人 (40人)
2014年2月	国際電気通信連合電気通信標準化部門 第16研究委員会 (ITU-T・SG16会合)	232人 (146人)
2015年9月	第7回日・ASEAN諸国防衛担当局次官級会合	50人 (47人)
2018年1月	第3回日・ASEAN航空協定交渉会合	34人 (25人)
2019年12月	第7回中小企業協力に関する日露会合	103人 (22人)

▼ 2010 日本APEC貿易担当大臣会合



道産食の発信イベント

▼ (2010 日本APEC貿易担当大臣会合)



Ⅲ 政府系国際会議誘致の取組

■ プレ・ポストMICE

魅力的な自然環境と多彩なコンテンツ

- **安全・安心でおいしい食体験**
→日本一の食料自給率、豊かな道産食材
- **明瞭な四季の変化、冬の寒さや美しい雪**
→さっぽろ雪まつり、ウインタースポーツ
- **日本新三大夜景都市（2022年再認定）**
→藻岩山、札幌テレビ塔、羊ヶ丘展望台等からの夜景
- **日本三大イルミネーション（2022年再認定）**
→さっぽろホワイトイルミネーション
- **世界水準の文化・芸術施設やイベント**
→コンサートホール「kitara」、オペラ・バレエ鑑賞ができる「hitaru」、世界三大教育音楽祭「PMF」

ユニークベニュー

- 札幌の多彩な観光資源を活用したユニークベニューの提供

《過去の活用事例》

大倉山ジャンプ競技場、モエレ沼公園のガラスのピラミッド
JRA札幌競馬場 など

ホワイトイルミネーション ▶



◀ kitara

藻岩山からの夜景 ▶



大倉山
ジャンプ競技場

モエレ沼公園の
ガラスのピラミッド ▶



Ⅲ 政府系国際会議誘致の取組

■ サステナビリティ

札幌の取組

- GDS-Movement（環境配慮の国際的指標プログラム）への加盟（2016年）
- SDGs未来都市に選定（2018年）
- フェアトレードタウンに認定（2019年）
- LEED for Cities and Communities プラチナ認証の取得（2020年）
- 2050年「ゼロカーボンシティ」の実現を目指し、札幌市気候変動対策行動計画の公表と気候非常事態宣言を発出（2021年）



カーボンオフセットプログラム

一般社団法人さっぽろ北海道MICE振興協会と連携し、コンベンション参加者の移動や宿泊時に生じる二酸化炭素を地域の森で吸収する循環型モデルを構築



IV 国際会議等開催の受入環境

■ 宿泊施設

札幌市内のホテル

- ホテル数 257軒
- 客室数 30,696室
- 定員数 61,064人

【札幌駅エリア】

- ・JRタワーホテル日航札幌 (342室)
- ・京王プラザホテル札幌 (493室)
- ・ANAクラウンプラザホテル札幌 (412室)
- ・センチュリーロイヤルホテル (300室) など

京王プラザホテル札幌 ▼



札幌プリンスホテル ▼



【大通公園エリア】

- ・札幌プリンスホテル (587室)
- ・ロイトン札幌 (291室)
- ・札幌ビューホテル大通公園 (331室)
- ・札幌グランドホテル (449室) など

【すすきの・中島公園エリア】

- ・札幌パークホテル (216室)
- ・プレミアホテル・TSUBAKI・札幌 (322室)
- ・ホテルマイステイズプレミア札幌パーク (216室)
- ・プレミアホテル中島公園札幌 (225室) など



▲ 札幌パークホテル

IV 国際会議等開催の受入環境

■ 主な会議開催エリア



IV 国際会議等開催の受入環境

■ 札幌コンベンションセンター

- 敷地面積 41,019m²
- 延床面積 20,310m²
- 構造 地下1階・地上3階 (RC造、一部SRC・S造)
- 供用開始 平成15年6月
- 指定管理 SORA-SCC共同事業体 ((株)コンベンションリンクージ、(株)東洋実業)



コンベンション施設の機能強化

ハイブリッド会議への対応と感染症対策の視点から札幌コンベンションセンターの機能強化を実施

- サーマルカメラ、アクリルパーテーション、各室前に消毒液を設置
- 独自のガイドラインの策定
- ハイブリッド会議への対応のため、インターネット回線の強化
- 映像配信の需要を見据え、プロジェクターのアップグレード
- 国際衛生供給協会(ISSA)が定める国際衛生基準「GBAC STAR認証」を取得





©imagenavi

ご清聴ありがとうございました。